

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
2/2	M22460	3月15日	3月31日	WEB申請 (郵送不可)	本庄八郎記念お茶財団	2023年度 助成金	お茶に関する研究者、生産者、団体に対してその研究活動を支援する。(お茶の更なる普及と価値向上に貢献し得る研究課題であること) ・お茶またはお茶の成分に関する研究者及び団体に対する助成金 ・お茶の生産に関する研究者、農家及び団体に対する助成金 ・お茶に関する文化活動に関わる個人及び団体に対する助成金	・国籍・学歴・経歴・所属の制限なし。 実務家、在野研究者、市民が参加した組織もOK ※ 推薦状必要 (研究プロジェクトを客観的に評価できる方)	上限300万円 /件	5~8件	1年間 (原則)	https://ocha-zaidan.or.jp/
1/20	M22446	—	3月31日	必着	日本税務研究センター	第46回日税研究賞	租税等に関する研究の奨励、及び研究水準の向上等を目的として、租税法、租税制度、租税論、租税行政、税理士制度及び租税会計に関する未公表の論文及び既公表の論文・著書を募集する。 ●未公表論文:本賞のために日本語により執筆(共同執筆を除く)されたもので、本賞表彰式が終わるまでの間、いかなる媒体にも公表されることがないものとし、執筆の形式及び字数については、以下の通り。 ・形式:A4判横書(40字×30行=1,200字)、原則Microsoft Wordで作成、文字サイズ:10.5ポイント ・字数:研究者の部:44,000字まで 《字数厳守》 ※文字数は、本文・脚注・図表の合計とする。それ以外の表紙・目次・写真・参考文献等は、文字数に含めない。 ※図表は1頁及び1頁の4分の3以上1頁未満=1,200字、1頁の半分以上、4分の3以下=900字、 1頁の4分の1以上、半分以下=600字、1頁の4分の1以下=300字とみなす。 ●既公表論文、著書(論文を内容とするもの):2022年1月1日から12月31日までの間に公表・刊行された日本語によるもの(共同執筆を除く)で、2021年12月31日以前に公表の論文が含まれる論文集、単なる実務上の解説書の域を出ていないもの、改訂版、翻訳物及び辞(事)典類並びに本賞以外の賞に応募したものは含めない。 1年を超える連載論文又は著書からなるものについては、連載又は刊行完結が2022年内のものを対象	研究者の部: A部門:大学(短大を含む)の教授、准教授、講師 B部門:大学の助教、助手、大学院生(A部門以外の者)、及びこれらに準ずる者	●未公表論文 最優秀:150万円 優秀:50万円 入選:20万円 ●既公表論文・著書 特別賞:50万円 奨励賞:20万円	各1件	—	https://www.jtri.or.jp/
2/22	M22452	—	4月3日	郵送 (消印有効)	【再掲】 日本生命財団	2023年度 環境問題研究助成 ① 学際的総合研究	① 学際的総合研究:課題「人間活動と環境保全との調和に関する研究」ここでは、取り上げた研究課題に対し学問領域の枠を超え学際的・総合的な研究として、多方面・他分野の大学研究者と地元自治体、更にはNPO・NGO・地域住民等の実践活動者などが協働して推進する他分野協力型、実践型、提言型の研究を期待する。【以下、要項より抜粋】 i)「持続型社会の構築に向けた地域循環共生圏の形成」～持続型社会構築の為に、各々の地域における持続可能な地域づくり(SGDsのローカル化)が求められ、その実現には、多様な主体の参加と協働により、都市と農村が連携して、地域の特性・資源を生かして地域ネットワーク形成しつつ、自立・分散型でかつ交流を促進する社会の構築を目指していくことが重要である。同時に、自然システムと人間・社会システムの統合的向上を通じ、人と自然が共生する地域の豊かさを創造していくことが求められる。こうした人間活動と環境保全をめぐる横断的な課題を統合化し、将来世代に向け一体的な解決に資する研究を募集する。 【キーワード】リサイクル・リテ、自然資本、自然資源経済、地域資源の活用、ランド・スケープ、都市(緑地)計画、都市と農村・中山間地域との連携・共生、コパ・クワテ、森里川海のつながり、地域コミュニティの維持、エコ・リサ・ム、コモンズ、在来種の継承、レジリエンス、環境教育、30 by 30、ネイチャー・ポジティブ、自然再生、生物多様性の保全、生物多様性地域戦略、生態系ネットワーク、生態系サービスの価値評価、野生動物問題、外来生物対策等 ii)「気候変動の影響や自然災害に対する適応力の強化」～近年の温暖化進行による自然災害の被害拡大等、生活を取り巻くリスクの増大により、脱炭素化社会への移行を地球規模での加速化が求めらると共に、昨今頻発する事前被害に対する防災・減災対策も重要な課題である。生態系が有する防災・減災機能を十分に活用し、人口構造物と合わせ両者の特徴を上手に生かした総合的な対策が望まれる。同様に、災害からの復旧・復興についても、単なる復元ではなく自然との調和を図り大きな災害にも適応できるような持続可能な地域づくりが求められる。これらの課題解決に資する研究を募集する。 【キーワード】グリーン・レジリエンス、生態系機能、グリーン・インフラ、Eco-DRR、グリーン・リカバリ、土地利用の見直し、適応復興、事前復興、景観デザイン、気候変動適応法、ESD・防災減災教育、森林流域管理等	① 学際的総合研究: ・代表研究者の国籍・所属や資格は原則として問いません。ただし、以下の場合代表者となる事は不可。 ● 海外居住者 ● 営利の追求を目的とする機関(企業)に所属する者	① 1,000~1,500万円/2年/件	① 2件	① 2年間	http://nihonseimei-zaidan.or.jp/index.html
2/22	M22452	—	4月3日	郵送 (消印有効)	【再掲】 日本生命財団	2023年度 環境問題研究助成 ② 若手研究・奨励研究	② 若手研究・奨励研究:本財団の「助成の趣旨」を踏まえた環境問題研究で、若手研究者(45歳未満)の基礎的研究・萌芽的研究や新しい分野への挑戦的研究(特に課題は設定しない)	② 若手研究・奨励研究: ・代表研究者の国籍・所属や資格は原則として問いません。ただし、以下の場合代表者となる事は不可。 ● 海外居住者 ● 営利の追求を目的とする機関(企業)に所属する者 ● 年齢は45歳未満(1978年4月1日以降生まれ)とする。 但し、学生(院生を含む)には応募資格はありません。	② 50~150万円/年/件	② 25件程度	② 1年間	http://nihonseimei-zaidan.or.jp/index.html

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
2/22	M22468	-	4月6日	WEB申請 (~23:59 JST)	公益財団法人 サントリー文化財団	2023年度 研究助成「学問の未来を拓く」	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今、研究の世界では短期的な成果が求められ、多分野にまたがる研究や普遍的なテーマへの取り組み、新しいテーマや手法へのチャレンジなど、大胆な冒険がしにくくなっています。このような時代だからこそ、当財団では、大きな志をもった研究活動を応援します。驚きや発見に富み、研究に携わる人をはじめ、人々を知的にわくわくさせるような申請を待っています。 【求める研究の姿】 <抜粋> ・人文学、社会科学の分野において、冒険的で意欲ある研究。率直にその難しさを訴えてもらい、解決の方法が明らかでなくても、課題や困難を乗り越える道筋を描こうとする「試み」を歓迎します。 ・さまざまな分野や世代を含む3名以上のグループ研究を求めます。 ・大学等に所属の研究者だけでなく、多様なバックグラウンドを持った専門家の参加を歓迎 ・研究成果の社会還元を目指す姿勢や、学術性の高い専門的なテーマでも、社会とのつながりを意識して広く一般社会に伝えることを目指すこと ・既に始めている研究、新たに着手する研究のいずれも申請可能 	①申請代表者の国籍、居住地は問いませんが、書類作成、中間報告会での学際的な議論への参加が可能な日本語能力を持つことを条件とします	50~300万円/件	30件程度	1年 2023/8/1~2024/7/31	https://www.suntory.co.jp/sfnd/research/
2/22	M22466	3月31日	4月14日	メール提出 ※(承諾書原本のみ郵送/当日必着)	国立民族学博物館	2023年度共同研究計画【一般】	<p>共同研究（一般）の課題区分:</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カテゴリ-1：新領域開拓型：を対象とし、挑戦的で、新領域開拓につながる研究。基礎的研究や萌芽的研究、地域を設定した特有の課題に関する研究も含む。 ●カテゴリ-2：学術資料共同利用型：本館の所蔵する資料（標本資料、文献資料、映像音響資料等）に関する研究。広い意味で展示につながる共同研究も含む。 <p>【経費】研究代表者、共同研究員及び特別講師には、共同研究会の開催に要する交通費、日当、宿泊料が支給される。また、必要に応じて、会場使用料（本館以外で開催の場合）が支給される。</p> <p>※経費には、データベース化、デジタル化のための謝金及び調査のための経費は含まれない。</p>	(1)参加資格(抜粋) 日本国内に在住し、かつ大学その他の研究機関に所属(非常勤含)し、又はこれと同等以上の研究能力を有すると館長が認めた研究者。研究者には、大学院学生（博士後期課程在籍相当以上）及び日本学術振興会特別研究員を含むものとする。 (2)組織（抜粋） 共同研究（一般）規模は、10~15名程度を目安とする。 (本館の専任教員（本館の教授、准教授、助教の職にある者）を1名以上メンバーに含めることを推奨する) ※若手研究者をメンバーに含めることを推奨する。	100万円程度?/件	6-8件	2.5年 2023/10月 ~ 2026/3月	https://www.minpaku.ac.jp/research/project/iurp/offer
2/22	M22467	3月31日	4月14日	メール提出 ※(承諾書原本のみ郵送/当日必着)	国立民族学博物館	2023年度共同研究計画【若手】	<p>共同研究（若手）の課題区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カテゴリ-1：新領域開拓型：文化人類学・民族学及び関連諸分野を含む幅広いテーマを対象とし、挑戦的で、新領域開拓につながる研究。基礎的研究や萌芽的研究、地域を設定した特有の課題に関する研究も含む。 ●カテゴリ-2：学術資料共同利用型：本館の所蔵する資料（標本資料、文献資料、映像音響資料等）に関する研究。広い意味で展示につながる共同研究も含む。 	(1)参加資格(抜粋) 日本国内に在住し、かつ大学その他の研究機関に所属(非常勤を含む)し、又はこれと同等以上の研究能力を有すると館長が認めた研究者。研究者には、大学院学生（博士後期課程在籍相当以上）及び日本学術振興会特別研究員を含むものとする。 (2)組織 共同研究(若手)規模は、8~10名程度を目安とする。本館の専任教員(本館の教授、准教授、助教の職にある者)を1名以上メンバーに含めることを推奨する。 ※応募資格:研究代表者は、申請時 39歳以下の研究者であること。	~100万円/件	2件	2.5年 2023/10月 ~ 2026/3月	https://www.minpaku.ac.jp/research/project/iurp/offer
2/22	M22412	-	4月17日	郵送必着	【再掲】 国土地理協会	2023年度 学術研究助成	<p>助成対象となる調査・研究について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地理学および関連する分野の学術的調査・研究 2. 地図・地名に関する学術的調査・研究 3. 地理・地図・環境等に関する教育・普及を目的とした研究および活動 <p>【募集期間:4/3~4/17】(2週間限定)</p>	大学院博士課程を修了し、もしくは同等以上の能力と研究経験を有し、大学その他の教育機関や研究機関・博物館・図書館等に在職（または在学）して調査・研究に従事している、個人または研究グループ。なお、これらの機関で常勤の職に就いている者に限って、助成を申請する代表者となることができます。（大学院在学の場合は、指導教官等）ただし、過去5年間に本助成に採択され、助成金を受領した方の応募は対象外とします。	1, 2.は 100万円/件 3.は 50万円/件	合計13- 15件程度	1年間 (最長2年)	https://www.kokudo.or.jp/index.html
3/2	M22473	4月4日	4月18日	所属機関経由 提出	放送大学教育振興会	2023年度 助成事業	<p>下記の事業を対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.放送、インターネット等を利用した教育を行う大学等における、その効果的な教育内容、教育方法、教材、教育システム等に係る研究開発事業及び当該研究開発の成果に基づく実践事業 2.放送、インターネット等を利用した高等教育に関し、その国外の教育研究機関等への普及・協力に係る事業及び国際的な交流に係る事業 <p>※所属機関の経路による申請手続き: この助成事業への応募は、応募される教育研究者の所属機関経由の申請を原則とする →申請を希望される方はリサーチオフィス迄できるかぎり早くご連絡ください</p>	1. 放送大学、放送大学の放送教材・印刷教材を利用して教育を行っている大学その他の教育機関、又はこれらの機関以外のもので通信教育若しくは遠隔教育を実施している教育機関の教育研究職員。 2.上記(1)に掲げる機関以外の大学その他の機関の教育研究職員であって、左記の事業に従事している者。	~150万円/件	15件程度	~2023年度末	https://www.ua-book.or.jp/jyosei/

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
3/2	M22470	4月6日	4月20日	郵送 (必着)	戸部眞紀財 団	2023年度 研究助成	日本国内の大学、及び同等の研究機関に於ける、化学、食品科学、芸術学/デザイン学、体育学/スポーツ科学、及び経営学の分野の研究に対して、助成金を給付することにより、将来に有為なる人材を育成することを目的とする。 ・対象分野：化学/食品科学/芸術学/デザイン学/体育学/スポーツ科学/経営学（ビジネス・公共経営、マーケティング等） ・モノマネではない独創的な発想を基にした革新的な研究であり、将来広く社会に貢献するものであること 【提出書類】 推薦状を含む。 推薦状：本財団指定用紙。学長、部局長（学部長、研究科長、センター長等）の推薦を受けること 押印は職印のこと（個人印は不可）、推薦状は手書き可	【応募資格】 ・日本の大学、及び同等の研究機関（大学共同利用機関、公的機関等）に所属する研究団体、または研究者 ・代表研究者の年齢が2023年4月1日現在で40才以下であること（国籍不問） ・研究活動において優秀な研究団体、研究教室、または研究者 ・国際交流の促進、文化芸術及び科学技術の振興に貢献する研究団体、または研究者 ・非常勤、研究員、助手の方も応募可能。 ・学生は応募できません。（共同研究者は可）	～100万円/1 年/件	20件程度	1年間 2023/10/1～ 2024/9/30	https://tobe- maki.or.jp/grant/
3/22	M23023	-	4月21日	Web申請 (24:00締 切)	クリタ水・環境 科学振興財 団	国内研究助成1 【人文・社会科学】	人文・社会科学：水に関する文化、教育、歴史、政策、制度などの研究 ※ 申請期間ご注意ください 申請受付期間：2023年4月1日(土) 0：00～ 4月21日(金) 24：00	(1) 日本国内の大学、高等専門学校、その他研究機関（民間団体・企業を除く）に所属する研究者 (2) 原則として45歳以下であること (3) 萌芽的研究b)は若手研究者の独立を応援することが目的であり、主旨をご理解いただき、ご応募ください 【例】「新しい職場になり新たに○○研究をスタートする」 「将来○○を本格的に研究する準備をする」 「従来の研究分野と異なり新たに○○分野の研究を開始する」 「博士課程を修了し○○年目で○○研究を目指す」等、 他同様な主旨であれば可とする (4) 助成金の管理および経理事務を申請者の所属機関が行なえること (申請者個人あるいは研究室の口座への振込みは行っていません)	～100万円/ 年/件	10件程度	1年 2023/10/1～20 24/9/30	http://www.kwef.or.jp/to p.html?cb=167928476908 I
3/22	M23024	-	4月21日	Web申請 (24:00締 切)	クリタ水・環境 科学振興財 団	国内研究助成1 【萌芽的研究】	萌芽的研究 a)自然科学・技術の分野、人文・社会科学の分野で 特に新しい切り口や手法に基づく水や水環境に関する研究 b)若手研究者あるいは独立して研究を開始する研究者による水や水環境に関する研究 ※ 申請期間ご注意ください 申請受付期間：2023年4月1日(土) 0：00～ 4月21日(金) 24：00	(1) 日本国内の大学、高等専門学校、その他研究機関（民間団体・企業を除く）に所属する研究者 (2) 原則として45歳以下であること (3) 萌芽的研究b)は若手研究者の独立を応援することが目的であり、主旨をご理解いただき、ご応募ください 【例】「新しい職場になり新たに○○研究をスタートする」 「将来○○を本格的に研究する準備をする」 「従来の研究分野と異なり新たに○○分野の研究を開始する」 「博士課程を修了し○○年目で○○研究を目指す」等、 他同様な主旨であれば可とする (4) 助成金の管理および経理事務を申請者の所属機関が行なえること (申請者個人あるいは研究室の口座への振込みは行っていません)	～100万円/ 年/件	25件程度	1年 2023/10/1～20 24/9/30	http://www.kwef.or.jp/to p.html?cb=167928476908 I
3/22	M23025	-	4月21日	Web申請 (24:00締 切)	クリタ水・環境 科学振興財 団	国際会議助成（発 表） 2023年度募集	助成対象会議：2023年10月～2024年9月に 海外で開催される水や水環境に関する国際会議 ※ 申請期間ご注意ください 申請受付期間：2023年4月1日(土) 0：00～ 4月21日(金) 24：00	(1) 日本国内の大学、高等専門学校、その他研究機関（民間団体・企業を除く）に所属する研究者 (2) 過去に当財団から国内研究助成を受けた研究に関連するテーマであり研究の進展に応じ 何回でも申請可能とする (3) 助成金の管理および経理事務を申請者の所属機関が行なえること (申請者個人あるいは研究室の口座への振込みは行っていません)	～25万円/件	2-3件	1年 2023/10/1～20 24/9/30	http://www.kwef.or.jp/to p.html?cb=167928476908 I
3/22	M23026	-	4月21日	Web申請 (24:00締 切)	クリタ水・環境 科学振興財 団	国際会議助成（開 催） 2023年度募集	助成対象 2023年10月から2024年9月に、国内の学会またはそれに準ずる団体が主催あるいは協賛する水環境に関する国際会議であって、アジアで開催される学術会議 ※会議の中で「クリタ」の冠を付けたイベント（賞、セッション等）を行う事が望ましい ※ 助成金は選考結果に基づき下記を上限として交付する ・一般 500,000円/1件 ・特別（冠イベント実施）1,000,000円/1件	(1) 日本国内の大学、その他研究機関（民間団体、企業を除く）にて水環境分野の調査研究をしている研究者 (2) 助成金の管理および経理事務を申請者の所属先が行なえること (申請者個人あるいは研究室の口座への振込みは行っていません)	50万円 もしく は 100万円/件	2-3件	1年 2023/10/1～20 24/9/30	http://www.kwef.or.jp/to p.html?cb=167928476908 I

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
2/22	M22462	4月15日	4月30日	郵送 (当日消印有効)	サンベルクス 眞澄財団	助成事業	大学院・大学における仏教・神道に関する研究に対し、下記の通り助成を行う。 (1)国内外における宗教学に関する研究が対象。 (2)研究に直接要する費用を助成する。	大学院・大学において宗教学に関する研究を行う者（共同研究を含む）。	30~50万円/ 件	不明	1年 2023/4/1~202 4/3/31	http://www.sunbel-masumizaidan.jp/
3/22	M23027	-	4月30日	郵送(当日消 印有効)	公益信託 福原心理教 育研究振興 基金	2023年度募集	心理教育の研究、特に人間の精神的健康（メンタルヘルス）およびウェルビーイングに目を向ける研究を助成することにより、社会的に貢献することを目的とします。本基金の設定趣意書を熟読いただき、十分にご理解されたうえで、以下に該当する研究を申請されることを期待します。 研究のポイント(申請研究に期待するところ)は以下です。（具体的には下記2もご参照ください）。 ① 研究の持続性、発展性が見込めること ② 研究の独創性が高いこと（研究分野を開拓し、進められること） ③ 申請内容は、原則として1年間での実現可能性が見込めるものであること（企画の具体化、背景が明確になる等、その成果が公表可能なもの）	(1) 我が国の大学、公的研究機関等、営利を目的としない国内研究機関（以下「大学等」という）に所属する心理教育およびその関連の研究者による、実践活動に貢献し得る研究であること、またそのような理論的基盤を確立することに寄与する研究であること。複数の研究者による共同研究は不可とします。 (2) 独創性に優れた研究であり、かつ研究者の過去の実績等に照らし、優れた成果が期待できること。 (3) 対象者は心理学並びに隣接する領域（教育学、人間科学、保健学、医学等）の博士号を有すること、もしくは心理学系の常勤研究職（助教相当以上）であること。	~100万円以 内/件	3件程度	1年以内（給付 後）	https://www.smtb.jp/-/media/tb/personal/entrystatement/public/example/pdf/FukuharaShinri_a.pdf
1/20	M22410	—	4月30日	必着 メール提出	生命保険文 化センター	「2023年度生命保険 に関する研究助成」	生命保険及びこれに関連する分野の研究を対象とする。 関連する分野とは、例えば、生命保険事業や生命保険を取り巻く法制、会計、IT・金融、ファイナンス等の様々な制度に関するもののほか、生活保障や生活設計、消費者行動に関する研究など生命保険にアプローチ可能な分野も含まれる。 具体的には、商学・経営学、経済学、法学、家政学、社会学、消費者教育学、数学・統計学といった幅広い学問分野による「生命保険及びこれに関連する」研究が対象となる。	【抜粋】 a.若手研究者：日本国内の大学の大学院生（博士後期課程）、助教、講師、准教授、その他これに準ずる研究者（詳細条件は要項を確認ください） b.一般研究者：教授、その他これに準ずる研究者	上限50万円/ 件	a.若手:約 12件 b一般:約3 件	2023/4/1~2024/ 3/31	https://www.jili.or.jp/index.html
12/16	M22415	—	4月30日	郵送 当日消印有効	ひと・健康・未 来研究財団	2023年度 研究助成	「ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康をめざした研究を振興し、もって国民の健康増進と生活の質の向上に寄与する」ことをめざす研究者に助成する。 公募テーマ:食品、環境、医学、福祉の研究のうち上記の目的にかなうテーマ。 【募集期間:4/1~4/31】(1か月間)	日本国内において上記テーマに関する研究を行う人。 年齢は問いません。意欲のある若い研究者からの応募も歓迎します。 前回採用から3年経過の方は応募可能です。 ※営利目的の研究には助成できません。	20~100万 円/件	合計14- 20件程度	2023/9~ 2024/8	
2/2	M22458	—	4月30日	郵送 (消印有効)	公益信託 福原心理教 育研究振興 基金	2023年度 研究助成	当公益信託は、心理教育の研究、特に人間の精神的健康（メンタルヘルス）およびウェルビーイングに目を向ける研究を助成することにより、社会的に貢献することを目的とする。 研究のポイント(申請研究に期待するところ)は以下の通り。 ① 研究の持続性、発展性が見込めること ② 研究の独創性が高いこと（研究分野を開拓し、進められること） ③ 申請内容は、原則として1年間での実現可能性が見込めるものであること（企画の具体化、背景が明確になる等、その成果が公表可能なもの） 具体的な助成対象となる研究テーマは次の通り。 ・我が国の大学、公的研究機関等、営利を目的としない国内研究機関（以下「大学等」という）に所属する心理教育およびその関連の研究者による、実践活動に貢献し得る研究であること、またそのような理論的基盤を確立することに寄与する研究であること。複数の研究者による共同研究は不可。 ・独創性に優れた研究であり、かつ研究者の過去の実績等に照らし、優れた成果が期待できること。	対象者：心理学並びに隣接する領域（教育学、人間科学、保健学、医学等）の博士号を有すること、もしくは心理学系の常勤研究職（助教相当以上）であること	100万円以 内/ 件	3-4件程度	1年間 (助成給付後)	https://www.smtb.jp/-/media/tb/personal/entrystatement/public/example/pdf/FukuharaShinri_a.pdf
3/22	M23022	4月25日	5月12日	郵送 (必着)	山崎香辛料 振興財団	令和5年度研究助成	【対象となる研究範囲】 香辛料の基礎的研究並びに香辛料の原材料や応用などの関連分野に関する研究(香辛料に関する自然科学の分野の研究はもとより、社会科学分野の研究についても募集する。また基礎的研究分野に限らず、応用研究なども対象)で、具体的には、次に掲げる①~⑧テーマに関する研究。 ① 香辛料の成分研究 ② 香辛料摂取による生活習慣病予防もしくは老化抑制に関する研究領域 ③ 香辛料摂取による運動機能の維持・向上（ロコモティブシンドローム予防等）に関する研究領域 ④ 複数の香辛料による生理機能の相乗効果に関する研究領域 ⑤ 香辛料の香りによる癒し効果に関する研究領域 ⑥ 香辛料に関する栽培・育種部門、加工・応用部門の研究領域 ⑦ 香辛料に関する社会科学分野の研究領域 ⑧ その他、助成の趣旨に照らして必要と認められる事項に係る研究領域	日本国内の国公立大学、公的研究機関に所属するグループ又は単独（個人）	~100万円/ 年x1~3年/ 件	10件程度	1~3年	http://yamazakispice-promotionfdn.jp/index.shtml

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
3/22	G23002	-	5月19日	メール申請もしくは郵送(必着)	姫路市政策局 高等教育室	令和年5年度 大学発まちづくり研究 助成事業	<p>姫路市では、地域の知の拠点である大学と連携したまちづくりを推進するため、創意工夫あふれる内容により、本市の政策に対して提案等を行う研究活動に対して助成を行います。</p> <p>【募集する研究テーマ】 (1) 姫路市の政策や課題について提案等を行う研究 (2) フィールドワークを中心とした姫路市のまちづくりに関して提案等を行う研究</p> <p>※ 姫路市SDGs未来都市の観点も踏まえたテーマ設定としてください。</p> <p>【本市が希望する研究内容(抜粋)】 ●放課後児童クラブに関するアンケート調査の実施(こども総務課) 【課題】市内大学の学生を対象に放課後児童クラブに関するアンケート調査を実施し、クラブ運営の改善点や、若年層の職員を増やす方策等の基礎的データを得て、令和6年度に取り組み新規事業に反映させたい。</p> <p>【大学への希望】 ・運営方法：各運営方法のメリット・デメリットの整理、調査研究(本市は公設公営、同規模中核市の公設民営の事例あり) ・運営内容：遊び、勉強、間食等の時間割があるが、本市は各クラブ同一基準、画一的な実施内容である。公立クラブとして、制限はあるものの、新しい内容を取り入れられないか、柔軟な学生の視点・発想での提案 ●地元就職に関する意向調査(労働政策課) 【課題】近年は、いわゆる「売り手市場」で、学生が就職先を選択する際、大手志向が強く、本社機能の集まる首都圏等に人材が流出している。姫路市でも転出超過による人口減が続いており、特に女性の転出が多い。 【大学への希望】・キャンパス内の学生から、生の声を抽出し、姫路市に何が足りないのか? どのような要素があれば地元就職するのか? アンケート調査の実施及び結果解析(学生を地元出身、その他地域に区分して分析) ・特に若い女性が地元から出ていく要因の分析 ・既卒者はどうすれば地元に戻ってくるか? 等 以上</p>	大学のゼミ・研究室等の教員のみ又は教員を中心とした学生の「研究グループ」 ※姫路市HPIには昨年度までの情報のみ掲載されています。(3/14時点) 最新(R5年度)の募集要項他応募用紙等は、衣笠リサーチオフィスにありますので、ご希望される教員の方は、衣笠リサーチオフィス迄ご連絡ください。	~100万円/件	不明	1年 2023/4/1~2024/3/上旬	https://www.city.himeji.lg.jp/bousai/category/2-5-13-3-0-0-0-0-0.html
3/2	M22474	-	5月23日	郵送のみ(必着)	北野生涯教育振興会	2023年度 生涯教育研究助成	生涯教育の一層の充実をはかるため、生涯教育に関する調査・研究をする個人またはグループのうち資金援助を申請したのに対し、これに要する費用のうち一定額を助成する。	申請条件：過去に当財団の研究助成金対象者となっていないこと。また、2023年4月以降に他の研究助成金の対象者に決定していないこと。(申請中であっても結果が未定の場合には申込みは可とするが、他の助成金との重複は認めない。)	~100万円/件	10件程度	1年以上2年以内	http://www.kitanozaidan.or.jp/research.html
2/2	M22459	5月16日	5月31日	郵送(消印有効)	公益信託 仲谷鈴代記念 栄養改善活動 振興基金	栄養改善に関する研究 助成部門 2023年度	本公益信託は、栄養改善に携わる個人又は団体の研究を助成することにより我が国の栄養改善指導に寄与し、もって国民の健康維持・増進に資することを目的とする。 助成対象となる研究テーマ： 栄養改善に関する研究	対象者： ・左記の研究を行う個人又は団体 ・我が国の教育研究機関、医療機関及び福祉施設等に所属する個人又はその者を含む団体 【推薦者 = 所属機関長印 必要】	100万円以内/件	3-4件程度	1年間 (助成給付後)	https://www.smtb.jp/-/media/tb/personal/entrustment/public/example/pdf/NakataniSuzuyoResearch_a.pdf
3/22	M23028	6月1日	6月15日	メール提出(必着)	建設物価調査会	2023年度研究助成	<p>土木、建築等の建設工事に関する積算、工事費、資材価格、労務費等の価格情報及びその利活用方策に関する研究</p> <p>※その他、当財団の事業に関連する研究についても受け付けております。</p> <p>◇研究例</p> <p>①DX時代に相応しい価格情報・積算手法のあり方に関する研究 ②ライフサイクルコストを踏まえた価格情報のあり方に関する研究 ③当会提供データについての新たな活用等に関する研究 ④現行の積み上げ方式と異なる新たな積算方式・価格妥当性の評価等に関する研究 ⑤積算・コスト管理分野における建設業の担い手確保、育成に関する研究</p>	大学、高等専門学校及びこれらに付属する機関等の研究者又は民間企業の研究者	~200万円/年 x 1~2年/件	3件程度	1 or 2年 2023/9.1~2024/9/30, 2025/9/30	https://www.kensetubukka.or.jp/
3/2	M22471	—	6月15日	郵送(当日消印有効)	日本生命財団	2023年度 高齢社会助成 実践的課題研究助成	<p>研究者と実践家が協働して現場の実践をベースにして、実践に役立つ成果をあげるための実践的研究への助成を行う。</p> <p>【実践的研究助成対象分野・テーマ】 ●分野番号1:「いつまでも地域で高齢者が安心した生活が送れるまちづくり(地域包括ケアシステム)の推進」 ・テーマ番号:1.在宅サービス(医療、ケア、住宅等を含む)の推進/2.高齢者を支える介護・看護・医療連携システムの開発・実践 / 3.ICT技術を活用した地域情報共有システムの開拓的な実践 / 4.在宅生活を推進するための住民や専門職の連携・人材養成 / 5.施設と家族・地域のつながり / 6.インクルーシブな地域社会の構築へ向けての実践 / 7.家族介護者へのケア体制確立に向けての実践 / 8/在宅ターミナルケアにおける専門職種によるチーム活動 ●分野番号2:「人生100年時代の「高齢者の生きがい・自己実現・就業支援」(以下テーマは省略・HPをご確認ください) ●分野番号3:「認知症の人が地域で安心した生活ができるまちづくり」(本財団恒久分野) (以下テーマは省略・HPをご確認ください) ●分野番号4:「孤独・孤立の解消に向けて人々のつながりを深めるまちづくり」(以下テーマは省略・HPをご確認ください) 【重要】「実践的」とは、次の要件を全て満たしている研究で評価要件となるため、ご注意ください。 ●研究者と実践家(社会福祉士、介護福祉士、看護師、理学療法士、保健師、臨床心理士等現場の職員)が協働して取り組むこと。 よって研究組織に研究者と実践家が共に参画していること。 ●実践活動をベースに、サービス開発やシステム・制度設計の提案、提言、マニュアルの作成、試行のフォローアップに取り組むこと。 ●研究手法が具体的に明示されていること。実践のデータを収集し、仮説を策定し、質的・量的な分析を通じて仮説を検証し、実践を通じて評価する実証研究の手法、または、実践を考案し、それを試行、検証、修正を通じて理論化していくアクションリサーチの手法 ●研究結果が提案性・提言性に富み、開発された手法や提案・提言が実行性に優れ、成果の対象フィールドへの還元や他地域への波及が期待されること。 ●文献調査等の予備研究が終了していること。</p>	<p>●助成対象者(代表研究者) ・研究者(注)または実践家(研究者であり実践家である者を含む) (注) 助手も対象者となります</p> <p>●研究組織：複数名の研究組織で研究者と実践家の双方が参画</p>	~400万円 (~200万円/年 x 2年)	2件程度	2年間 (2023/10~)	http://nihonseimeizaidan.or.jp/index.html

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ									
3/2	M22472	—	6月15日	郵送 (当日消印有効)	日本生命財団	2023年度 高齢社会助成 若手実践的課題研究 助成	<p>研究者と実践家が協働して現場の実践をベースにして、実践に役立つ成果をあげるための実践的研究への助成を行う。 【実践的研究助成対象分野・テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分野番号1:「いつまでも地域で高齢者が安心した生活が送れるまちづくり（地域包括ケアシステム）の推進」 ・テーマ番号:1.在宅サービス（医療、ケア、住宅等を含む）の推進/2.高齢者を支える介護・看護・医療連携システムの開発、実践 / 3.ICT技術を活用した地域情報共有システムの開拓的な実践 / 4.在宅生活を推進するための住民や専門職の連携・人材養成 / 5.施設と家族・地域のつながり / 6.インクルーシブな地域社会の構築へ向けての実践 / 7.家族介護者へのケア体制確立に向けての実践 / 8.在宅ターミナルケアにおける専門職種によるチーム活動 ●分野番号 2: 人生 100 年時代の「高齢者の生きがい・自己実現・就業支援」（以下テーマは省略・HPをご確認ください） ●分野番号 3:「認知症の人が地域で安心した生活ができるまちづくり」（本財団恒久分野）（以下テーマは省略・HPをご確認ください） ●分野番号 4:「孤独・孤立の解消に向けて人々のつながりを深めるまちづくり」（以下テーマは省略・HPをご確認ください） <p>【重要】実践的とは、次の要件を全て満たしている研究で評価要件となるため、ご注意ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●研究者と実践家（社会福祉士、介護福祉士、看護師、理学療法士、保健師、臨床心理士等現場の職員）が協働して取り組むこと。 よって研究組織に研究者と実践家が共に参画していること。 ●実践活動をベースに、サービス開発やシステム・制度設計の提案、提言、マニュアルの作成、試行のフォローアップに取り組むこと。 ●研究方法が具体的に明示されていること。実践のデータを収集し、仮説を策定し、質的・量的な分析を通じて仮説を検証し、実践を通じて評価する実証研究の手法、または、実践を考案し、それを試行、検証、修正を通じて理論化していくアクションリサーチの手法 ●研究結果が提案性・提言性に富み、開発された手法や提案・提言が実行性に優れ、成果の対象フィールドへの還元や他地域への波及が期待されること。 ●文献調査等の予備研究が終了していること。 	<p>1.助成対象者（代表研究者） 実践的研究をしている45才未満の研究者(助手も対象者とする) または 実践家（研究者であり実践家である者を含む）</p> <p>2. 研究組織：複数名の研究組織で研究者と実践家の双方が参画 共同研究者が研究者の場合は45才未満(2023年4月1日現在45才未満(1978年4月2日以降生まれ)とする。 共同研究者が実践家の場合は年齢を問わないこととする。</p> <p>※代表研究者が研究者の場合、研究組織に必ず実践家が参画すること。 代表研究者が実践家の場合、研究組織に必ず研究者が参画すること。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>代表研究者</td> <td>共同研究者</td> </tr> <tr> <td>研究者</td> <td>45才未満</td> <td>45才未満</td> </tr> <tr> <td>実践家</td> <td>45才未満</td> <td>年齢制限なし</td> </tr> </table>		代表研究者	共同研究者	研究者	45才未満	45才未満	実践家	45才未満	年齢制限なし	~100万円/件	5件程度	1年間 2023/10/1~ 2024/9/30	http://nihonseimeizaidan.or.jp/index.html
	代表研究者	共同研究者																			
研究者	45才未満	45才未満																			
実践家	45才未満	年齢制限なし																			
3/22	M23031	6月15日	6月30日	メール提出 (必着)	日本建設情報総合センター	令和5年度研究助成	<p>建設分野における情報・システムを活用した調査研究を助成の対象とし、以下の対象課題に関する調査研究を広く募集します。</p> <p>特に、JACIC では「JACIC ‘i-Con’ チャレンジ戦略」1）において、新たな情報通信技術を取り込んだ新現場力 2）の構築に向けた取り組みを進めており、インフラ分野の DX への対応、新現場力の構築、建設生産性の向上に資する調査研究の応募を期待します。</p> <p>1. 指定課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 建設情報の標準化に関する調査研究 ② 3次元モデルや3次元データの活用による建設生産性向上、維持管理の効率化・高度化に関する研究 ③ 建設分野におけるデータベース、データプラットフォームの活用に関する調査研究 ④ ICT等に関する技術（AI、5G/IoT、XR（VR、AR、MR、SR）、センシング技術、画像処理技術等）の建設分野における活用に関する調査研究 ⑤ 建設分野の各プロセス（測量、調査、設計、施工、維持管理、防災対応等）及び建設現場での危機管理時の業務継続におけるICT活用に関する研究 ⑥ 建設分野の情報技術者の育成に関する調査研究 ⑦ 市民学習（インフラ整備・管理や防災等）への活用に関する調査研究 <p>2. 自由課題（上記①～⑦以外で、当財団の業務 3）に関連する課題）</p>	<p>・左記の研究項目に関心を有する大学、高等専門学校、民間（各種団体が運営する委員会等も含む）等の研究者</p> <p>・申し込み件数は 1 人あたり 1 件（共同研究の場合も同様）</p> <p>※・2か年の研究 : 助成額 600万円以内 1件以内 ・1か年の研究 : 助成額 300万円以内 3件程度 ・1か年の研究 : 助成額 100万円以内 3件程度 ・若手の1か年の研究 : 助成額 100万円以内 3件程度（令和6年4月1日時点で満35歳以下）</p>	①2年：~600万円/件 ②1年：~300万円/件 ③1年：~100万円/件 ④若手1年：~100万円/件	合計8件程度	1もしくは2年 2023/9/1/~2024/11/30, 2025/11/30	https://www.jacic.or.jp/jaic-hp/index.html									
3/22	M23029	-	6月30日	郵送（当日必着）	三井住友海上福祉財団	2023年度研究助成【交通安全等分野】	<p>交通事故又は各種災害の防止（交通環境、自動車工学、被害軽減、安全教育、被害者に対する医療など）に関する研究。</p> <p>選考基準としては以下該当する事。</p> <p>(1) 当財団による助成の必要性：研究が萌芽的、学際的であるため、あるいは研究者が若手で研究分野が確立過程にあって実績に乏しい等の理由により、公的助成や他からの援助が得にくく、当財団が助成することの意義が大きいこと。</p> <p>(2) 独創性、社会的意義、実用性：テーマの設定や研究方法に独創性があること。先見性と洞察力をもって現状・対策を分析し、より良い交通社会を目指すために社会的意義や実用性が大きいこと。</p> <p><テーマ例> 自動運転に伴う道路管理技術や交通管理技術、事故多発地点、標識、信号、交差点、バリアフリー、運転、追突防止、逆走防止、用具（シートベルト、チャイルドシート等）、自転車、次世代モビリティ、人間工学、身体損傷、救急医療、睡眠呼吸障害、救急体制、交通安全対策、意識調査、安全教育、効果測定、歩行者、高齢者、子供、コミュニティ道路など</p>	<p>個人研究、グループ研究のいずれも可。特に若手の研究者の応募を期待する。営利企業関係者、海外所在の研究機関に所属する研究者が代表者となる研究、実質的に完了している研究は対象外とする。また同一研究室・講座等からの応募は1件のみ受け付ける。</p> <p>※提出書類等： 「三井住友海上福祉財団研究助成申請書」7部（正1部、写6部）及びそのPDFファイルを格納したCDまたはDVDを2023年6月末日必着でご送付ください。なお、「研究計画の概要」は原則1ページ（最大でも2ページ）にまとめてください。</p>	~200万円/件	5~8件程度	1年	https://www.ms-ins.com/welfare/									
3/22	M23030	-	6月30日	郵送（当日必着）	三井住友海上福祉財団	2023年度研究助成【高齢者福祉分野】	<p>高齢者の福祉（医療、介護、予防、心理、環境など）に関する研究。</p> <p>(1) 当財団による助成の必要性：研究が萌芽的、学際的であるため、あるいは研究者が若手で研究分野が確立過程にあって実績に乏しい等の理由により、公的助成や他からの援助が得にくく、当財団が助成することの意義が大きいこと。</p> <p>(2) 独創性、社会的意義、実用性：テーマの設定や研究方法に独創性があること。先見性と洞察力をもって現状・対策を分析し、より良い高齢社会を目指すために社会的意義や実用性が大きいこと。</p> <p><テーマ例> 高齢者、老年病、老年医学、加齢現象、認知症、認知機能、咀嚼・嚥下機能、骨粗鬆症等の骨関節疾患、高齢者の動脈硬化・動脈硬化性疾患、高齢者の感染症、フレイル・サルコペニア、在宅医療、リハビリテーション、生活障害、看護、介護、訪問看護、健康増進、心理、生きがい、転倒予防、福祉機器、バリアフリー、社会福祉士、施設・町づくりなど</p>	<p>個人研究、グループ研究のいずれも可。特に若手の研究者の応募を期待する。 営利企業関係者、海外所在の研究機関に所属する研究者が代表者となる研究、実質的に完了している研究は対象外とする。また同一研究室・講座等からの応募は1件のみ受け付ける。</p> <p>※提出書類等： 「三井住友海上福祉財団研究助成申請書」7部（正1部、写6部）及びそのPDFファイルを格納したCDまたはDVDを2023年6月末日必着でご送付ください。なお、「研究計画の概要」は原則1ページ（最大でも2ページ）にまとめてください。</p>	~200万円/件	5~8件程度	1年	https://www.ms-ins.com/welfare/									

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
1/11	M22429	-	7月31日	電子申請・郵送もOK 締切日必着	関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団	2023年度助成事業【研究成果の出版助成】<第2回>	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー・リサイクル分野：エネルギー・リサイクル分野における基礎研究の更なる充実と産学連携を視野に入れた挑戦的応用研究の推進、研究者の育成、国際交流の促進等を図るため、電気・機械・化学・土木・情報をはじめとする自然科学分野、人文・社会科学分野、および両者が融合した幅広い分野の基礎研究および応用研究を対象とする。 キーワード：「革新的なエネルギーや環境・リサイクルに関する技術・システム」「従来のエネルギーや環境・リサイクル関連技術・システムの効率向上・高度化」「新しい社会や生活様式とエネルギー・環境」 ● 総合防災科学分野：防災、減災等、幅広い視点での総合防災科学分野の研究等への助成を行う 対象分野：自然科学分野、人文・社会科学分野、および両者が融合した幅広い分野の基礎研究および応用研究 キーワード：「災害と社会システム」「災害と情報システム」「災害と人間行動」 【研究成果の出版に対する助成】 研究論文の内外学術雑誌（電子ジャーナルを含む）への掲載費等を助成 	<p>大学等に勤務する研究者・博士後期課程の大学院生</p> <ul style="list-style-type: none"> ※：主に関西地域の大学等で、常勤であること。非常勤は対象外 ※：年齢制限はないが、若手研究者(概ね40歳以下)、研究歴が短い研究者(概ね研究歴10年未満)を助成の主対象とする。 <p>指定の期間に論文が学術雑誌（※）に掲載済または予定のもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ※：電子ジャーナル(国際的な知名度等を有し査読有るものに限定)を含む ※：功成額以上の領収書提出がない場合は、差額を返還 ※：応募資格に年齢制限はないが、若手研究者（概ね40歳以下）、研究歴が短い研究者概ね研究歴10年未満）を助成の主要対象とする。 	10万円以下	エネルギー・リサイクル分野=7件、総合防災科学分野：3件	論文掲載時期 2023/4月～ 2024/3月	https://www.krf.or.jp/
1/11	M22429	-	7月31日	電子申請・郵送もOK 締切日必着	関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団	2023年度助成事業【研究発表会等の開催助成】<第2回>	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー・リサイクル分野：エネルギー・リサイクル分野における基礎研究の更なる充実と産学連携を視野に入れた挑戦的応用研究の推進、研究者の育成、国際交流の促進等を図るため、電気・機械・化学・土木・情報をはじめとする自然科学分野、人文・社会科学分野、および両者が融合した幅広い分野の基礎研究および応用研究を対象とする。 キーワード：「革新的なエネルギーや環境・リサイクルに関する技術・システム」「従来のエネルギーや環境・リサイクル関連技術・システムの効率向上・高度化」「新しい社会や生活様式とエネルギー・環境」 ● 総合防災科学分野：防災、減災等、幅広い視点での総合防災科学分野の研究等への助成を行う 対象分野：自然科学分野、人文・社会科学分野、および両者が融合した幅広い分野の基礎研究および応用研究 キーワード：「災害と社会システム」「災害と情報システム」「災害と人間行動」 【研究発表会等の開催助成】 研究発表会、シンポジウム、学会および国際会議等の開催費を助成する。なお、2023年度募集では、新型コロナウイルスを踏まえ、オンライン等で開催する研究発表会、国際会議等の開催費についても助成対象とする。 	<p>大学等に勤務する研究者</p> <ul style="list-style-type: none"> ※：主に関西地域の大学等で、常勤であること。非常勤は対象外 ※：年齢制限なし <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、関西地域で開催される公開のもの(オンライン等での開催の場合は、応募資格を有する申込者が主催または主たる事務局を務める公開のもの)に限る。 ・学会の年次大会、支部大会等は対象外 ・国際交流活動助成(海外研究者招聘)との重複助成はなし(どちらか一方のみ) 	40万円以下	エネルギー・リサイクル分野=3件、総合防災科学分野：1件	開催時期 2023/10月～ 2024/6月	https://www.krf.or.jp/
1/11	M22429	① 7/16 ② 不要	7月31日	電子申請・郵送もOK 締切日必着	関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団	2023年度助成事業【国際交流活動助成】<第2回>	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー・リサイクル分野：エネルギー・リサイクル分野における基礎研究の更なる充実と産学連携を視野に入れた挑戦的応用研究の推進、研究者の育成、国際交流の促進等を図るため、電気・機械・化学・土木・情報をはじめとする自然科学分野、人文・社会科学分野、および両者が融合した幅広い分野の基礎研究および応用研究を対象とする。 キーワード：「革新的なエネルギーや環境・リサイクルに関する技術・システム」「従来のエネルギーや環境・リサイクル関連技術・システムの効率向上・高度化」「新しい社会や生活様式とエネルギー・環境」 ● 総合防災科学分野：防災、減災等、幅広い視点での総合防災科学分野の研究等への助成を行う 対象分野：自然科学分野、人文・社会科学分野、および両者が融合した幅広い分野の基礎研究および応用研究 キーワード：「災害と社会システム」「災害と情報システム」「災害と人間行動」 【国際交流活動助成】 研究者海外渡航と海外研究者招聘の2区分があります。 ① 研究者海外渡航：国際会議、研究発表会等で発表する際の海外渡航費（航空運賃、会議登録費、滞在費）を助成。 2023年度募集では、新型コロナウイルスを踏まえ、オンライン等で開催される国際会議等で発表する際の費用（会議登録費等）についても助成対象とする。 ② 海外研究者招聘：国際会議等において研究論文の発表もしくは招待講演を行う諸外国の研究者の招聘費（航空運賃および滞在費）を助成する。 	<p>① 研究者海外渡航：大学等に勤務する研究者・博士後期課程の大学院生</p> <ul style="list-style-type: none"> ※：主に関西地域の大学等で、常勤であること。非常勤は対象外 ※：年齢制限はないが、若手研究者(概ね40歳以下)、研究歴が短い研究者(概ね研究歴10年未満)を助成の主対象とする。 ※：所属する学部長または同等職位の書面による推薦状が必要。 <p>② 海外研究者招聘：大学等に勤務する研究者</p> <ul style="list-style-type: none"> ※：主に関西地域の大学等で、常勤であること。非常勤は対象外 ※：年齢制限なし ※：国際会議棟の招聘責任者であること ※：原則として、関西地域で開催される国際会議等に招聘する場合に限る。 ※：所属する学部長または同等職位の書面による推薦状は不要。 	①20万円以下 ②50万円以下	①エネルギー・リサイクル分野=10件、総合防災科学分野：2件 ②エネルギー・リサイクル分野=1件、総合防災科学分野：1件	①2023/10～ 2024/6月 ②2023/10～ 2024/6月	https://www.krf.or.jp/
1/11	M22427	8月21日	8月31日	電子申請・郵送もOK 締切日必着	関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団	2023年度助成事業【研究助成】	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー・リサイクル分野：エネルギー・リサイクル分野における基礎研究の更なる充実と産学連携を視野に入れた挑戦的応用研究の推進、研究者の育成、国際交流の促進等を図るため、電気・機械・化学・土木・情報をはじめとする自然科学分野、人文・社会科学分野、および両者が融合した幅広い分野の基礎研究および応用研究が対象。 キーワード：「革新的なエネルギーや環境・リサイクルに関する技術・システム」「従来のエネルギーや環境・リサイクル関連技術・システムの効率向上・高度化」「新しい社会や生活様式とエネルギー・環境」 ● 総合防災科学分野：防災、減災等、幅広い視点での総合防災科学分野の研究等への助成を行う 対象分野：自然科学分野、人文・社会科学分野、および両者が融合した幅広い分野の基礎研究および応用研究 キーワード：「災害と社会システム」「災害と情報システム」「災害と人間行動」 【研究助成】 必要な研究費（機器備品費、材料費、実験費等）や旅費・交通費を助成対象とする。 	<p>大学等に勤務する研究者</p> <ul style="list-style-type: none"> ※：主に関西地域の大学等で、常勤であること。非常勤は対象外 ※：年齢制限はないが、若手研究者(概ね40歳以下)、研究歴が短い研究者(概ね研究歴10年未満)を助成の主対象とする。 ※：所属する学部長または同等職位の書面による推薦状が必要。 <p>研究期間：1年間または2年間を選択できる。</p> <p>2年間を選択した場合、50万円/年x2年=100万円上限</p> <p>1年後(2月)に中間報告書を提出のうえで、中間報告書の審査結果により2年目の功成の可否を判断する。</p>	100万円以下	エネルギー・リサイクル分野=11件、総合防災科学分野：3件	2024/4月～ 1年、もしくは2年間	https://www.krf.or.jp/

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
10/6	M22298	財団提出2週間前	偶数月の1日	Web申請	電気通信普及財団	海外渡航旅費援助募 集要項（通年募 集）	情報通信の普及、振興発展に資するため、情報通信に関する研究（人文・社会科学分野及び技術分野）を行う研究者が、海外で開催される国際会議などで研究発表を行うための渡航費用の一部を援助する。 なお、当面の間、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、オンライン開催される国際会議で研究発表を行うための参加費も援助する。	日本の大学等及び研究機関に所属する研究者の方、大学院生でいわゆる博士課程（後期）に在学する方。40歳以下（申込年度の4月1日時点）で、所属する機関の長の推薦を受けた方。なお、大学院博士前期課程・修士課程の方は対象外とします。 ・申込者が中心となって行った情報通信に関する研究について、海外で開催される国際会議などに出席し発表する場合 ・海外で開催される国際会議などにおいてセッション等の議長若しくはパネリストあるいはプログラム委員会メンバーとして会議に参加する場合 ・海外における情報通信に関する国際機関が主催する会議での討議に参加する場合	渡航地域により異なる	50件程度	受付締め切り日翌月～半年間	https://www.taf.or.jp/grant-b/02/
11/24	M22385	随時受付 (提出2週間前)	随時受付	web申請	公益財団法人 江頭ホスピタリティ事業振興財団	令和5年度(2023)寄付講座開設助成	この助成事業は、ホスピタリティ事業における研究者の育成と共に産業界の発展や社会の安定と幸せに役立つ人材の育成を目的としており、独自に課題を抽出してその解決策を提案できる力を有する人材育成を目標としています。申請に当たっては、 ・当該講座がどのような人材育成を目指しているかを明確にすること ・講座/授業の狙い、履修の目安、到達目標等を記載すること ・講座の目的を達するために、どのような講座運営を行うかを記載する事 ・実習・ワークショップ・インターンシップ等の有無についても記載する事 ・成果/評価の確認方法を記載する事（また、受講者等の受講後のフォロー、学生の論文提出義務の有無、地域社会等への成果の還元等についても特記事項があれば詳述の事） 【該当助成分野】 A：食（文化）及び外食に関する分野 B：観光及びホスピタリティに関する分野	【申請者】申請者の資格は特に設けていません。 但し大学、公立研究所等の、広く公に認知されている機関の正規の職員であることが望ましい。 また研究の成果が社会に還元され人々の生活に寄与することが条件となります。 【助成期間】 おおむね3年を基本とし、最長5年	○	X	100万円程度	2件程度
12/16	未定		【見込】 4/20	メール提出	セコム科学技術振興財団	【予告】 2023年度 一般研究助成	【以下参考：2022年度募集要項より】 国民の健康で安全・安心な生活の確保や災害防止など、国民生活に密着した研究に助成する。これらの研究のうち社会的要請があり研究成果が実用化に結びつく可能性が高い、あるいは、研究成果が今後の科学技術の発展に寄与する、長期かつ大型の研究・開発課題（ <u>社会科学の研究を含む</u> ）を広く募集する。 【2023年3月下旬頃募集開始見込み】	【以下参考：2022年度募集要項より】 現に活発な研究活動を行っており、助成期間中継続的に研究を実施することができる国内の大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人（以下、大学と略す）に所属する59歳以下の研究者	【参考】 2022年度募集内容 ～50万円/件	6件程度	準備研究1年 本格研究2-3年 合計最長4年	http://www.sumitomo.or.jp/
12/16	未定		【見込】 6/3	WEB申請	ロッテ財団	【予告】 2023年度 研究助成	【以下参考：2022年度募集要項より】 自然科学から人文・社会科学にわたる「食と健康」の分野において、独創的・先端的な研究に専念する優れた若手研究者を助成。 1.「奨励研究助成」(A)(B)共通 ※申請対象年齢は原則40歳以下 ①食料加工関連技術 ②食品のマーケティング ③食文化 ④嗜好性（おいしさ・味覚）⑤栄養・機能性 ⑥食品安全・衛生 ⑦その他分野横断的領域 2.社会実装型研究分野「奨励研究助成」(A)のみ選択可 ※申請対象年齢は原則50歳以下 ⑧社会実装を念頭に置いた「食と健康」の実現のための研究 【2023年4月上旬頃募集開始見込み】	【以下参考：2022年度募集要項より】 本年4月1日時点で原則※40歳以下の方。国籍は問いませんが、本人が日本語で申請書を記載できる方。	【参考】 2022年度募集内容 奨励研究A ～300万円 奨励研究B ～100万円	奨励研究A 35件程度 奨励研究B 20件程度	奨励研究A 1～3年 奨励研究B 1年	http://www.lotte-isf.or.jp/
12/16	未定	6月15日	【見込】 6/30	WEB申請	住友財団	【予告】 2023年度 「環境研究助成・一般研究」	【以下参考：2022年度募集要項より】 環境に関する研究（分野は問いません） 【2023年4月中旬頃募集開始見込み】	【以下参考：2022年度募集要項より】 ①国籍に関係なく、日本の大学等の研究機関に所属し、申請に関する所属機関の長（大学の場合は学科長・学部長・病院長等）の承諾がとれる事。 ②上記①以外であっても、日本国籍を持つ者または日本に永住を許可されている外国人は、応募可能。 尚、海外の大学等の研究機関に所属している者は申請に関する所属機関の長の承諾を得ることが必要	【参考】 2022年度募集内容 ～50万円/件	40件程度	1年	http://www.sumitomo.or.jp/

配信日	NO	学内締切	財団締切	備考	財団名	事業名	研究テーマ	助成対象	助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
12/16	未定	6月15日	【見込】 6/30	WEB申請	住友財団	<p>【予告】 2023年度 「環境研究助成・課題 研究」</p>	<p>【確定事項】2023年度「環境研究助成・課題研究」募集課題 「激動の時代における環境問題の理解および解決のための学際研究または国際共同研究」 新型コロナ禍は収束の兆しが見えず、領土拡大行為が引き起こした世界的食料・エネルギー供給の危機、激甚な気象により益々頻発化する災害など、我々は激動の中に置かれている。環境問題にも、これまでとは異なった視点からのアプローチが求められている。たとえば、環境に良いと思われていたリユース・シェアといった行動も感染防御の観点から再考が求められており、それによりこれまでとは違った大量プラスチック廃棄物が生じている。また、パンデミックとデジタル化は就労パターンに大きな変革をもたらし、リモートワークを基本とする企業さえ出てきている。これにより、移動に関わるエネルギーや大気汚染が減少するかもしれないが、ビッグデータの保存やスーパーコンピュータによる大量電力消費など新たな問題が生じてきている。一方で、地球温暖化、地域または地球規模の大気・海洋汚染、マイクロプラスチック、有害化学物質などによる環境劣化、水、食料、エネルギーの不足、レアメタル等ハイテクを支える元素の偏在など問題は深刻化かつ重層化しており、生物多様性の保全、カーボンニュートラル実現に向けた再生資源・エネルギーの利用や持続可能な開発目標（SDGs）の達成、災害に強い安全・安心な社会の実現などの課題も山積している。</p> <p>本課題研究は、激動の時代における環境問題の構造を新しい眼で理解し、その解決を目指す独創的な学際研究を募集する。地球規模あるいは国外の特定地域の課題の場合は国際共同研究が期待される。また、自然科学的アプローチだけではなく、人間行動や社会経済システム変化を探索する人文社会科学的アプローチまたは双方に跨る学際研究も歓迎する。</p> <p>【2023年4月中旬頃募集開始見込み】</p>	<p>【以下参考：2022年度募集要項より】 ①国籍に関係なく、日本の大学等の研究機関に所属し、申請に関する所属機関の長（大学の場合は学科長・学部長・病院長等）の承諾がとれる事。 ②上記①以外であっても、日本国籍を持つ者または日本に永住を許可されている外国人は、応募可能。 尚、海外の大学等の研究機関に所属している者は申請に関する所属機関の長の承諾を得ることが必要</p>	<p>【参考】 2022年度募 集内容 ～10百万円/ 件</p>	3件程度	2年	http://www.sumitomo.or.jp/
3/7	未定	3月中旬	【見込】 4月上旬	電子申請・ 書類提出 期限までに必 着	村田学術振 興財団	<p>2023年度 研究助成</p>	<p>【参考：2022年度募集要項より】 対象分野：人文・社会科学＝国際化にともなう法律、社会、文化等の諸問題に関する研究 ※豊かな社会の実現を目指した社会課題解決のために、エレクトロニクス技術を利用した独創的研究には積極的に助成対象とする。 【2023年3月6日ごろ、募集要項をHPに掲載開始予定】</p>	<p>【以下参考：2022年度募集要項より】 有意義な研究、特に若手研究者で萌芽的な段階にある先駆的・独創的研究に関する研究者、又は研究グループ。日本国内に在住する外国人、海外在住の日本人も応募可能です。</p>	<p>【参考】 2022年度募 集内容 1～3百万円/ 件</p>	30件程度	1年	https://corporate.murata.com/ja-ip/group/zaidan